

平成 20 年 7 月 29 日
北 海 道 開 発 局

「常呂川水系河川整備計画〔国管理区間〕（原案）」に寄せられたご意見について

(1) 原案の縦覧

【縦覧期間】

平成 20 年 3 月 25 日（火）～平成 20 年 4 月 25 日（金）

【縦覧箇所】

常呂川流域市町村「北見市（本庁舎、常呂総合支所、端野総合支所）」、「置戸町」、「訓子府町」の各役所・役場、網走開発建設部（本部、北見河川事務所）

【提出意見数】

意見募集期間（平成 20 年 3 月 25 日～平成 20 年 4 月 25 日）において、郵送・FAX・メール等による意見書提出（記名意見）は 16 件ありました。

(2) 原案に関する地域説明会

【開催概要】

- ・平成 20 年 4 月 9 日（水）
北見市芸術文化ホール 傍聴者 13 名
- ・平成 20 年 4 月 10 日（木）
北見市常呂総合支所 傍聴者 12 名
- ・平成 20 年 4 月 11 日（金）
境野公民館 傍聴者 14 名

地域説明会の開催状況



北見市芸術文化ホール



北見市常呂総合支所



境野公民館

(3) 原案に関する公聴会

【開催概要】

- ・平成20年5月16日（金）18:00～19:00
北見市芸術文化ホール
公述人 3名、傍聴者 10名



公聴会の開催状況

(4) 寄せられたご意見 (原文)

※ 個人情報、貴重種などの位置情報に関する箇所はマスキングしています。

1) 北見市在住

① 今の北見の水質問題は取水の場所が長年枯れはれはれ、枯れが止まらないので、取水の場所の変更が必要。また、その枯れはれの原因は、農業の排水によるものではないかと考えられる。

② 北見市には、水質浄化施設が少なく、農業の排水による汚染が深刻化している。また、北見市には、水質浄化施設が少なく、農業の排水による汚染が深刻化している。

2) 北見市在住

昭和の年代前半頃までは、北見市の清流は、盛夏期には親子連れで水遊びの場が散見されたが、その後経済成長と共に、人間の生活環境が便へ捨てられ、生活産業残渣物の増加と山林乱開発等から、河川の汚染と水量減少の危機に陥った。現在は、全ての河川は劣悪な状況下で居る。今後は、全ての河川周辺の環境規制と山林の健全な保全への義務規制を策定して、北見市の美しい「水と緑の川」を再生される。

3) 北見市在住

常呂川水系の整備計画に関して

常呂川の問題点は二点有ると思われます。まず一点目は大雨時の異常出水に依る堤防の決壊や洪水等。二点目は、河川の汚れです。

異常出水の原因としては、河口の川幅の狭さ、河口より100m位上流の蛇行部分(この部分は本年度よりバイパス工事が始まりましたが)、それと異常出水時の鹿ノ子ダムの放水ではないかと思われ。この件に関しまして、一昨年の洪水の時河口より200m位上流で(昨年、崩落した護岸の工事が完成した部分)ほんの数分でそれまでのそれなりに安定していた水位が急に1m位上昇するの目撃しました。これはダムの放水以外には考えられませぬ。

次に汚染の原因としては、昨年の北見市での大規模断水で明らかに成りましたが、大雨時の支流沿いの周囲の畑の表土流出と、端野自治区、常呂自治区の堤外の耕地の表土流出ではないかと思われます。農家の方々には申し訳ないが、堤外の耕作は中止して藪き雑木や雑草地にして藪くと表土の流失はかなり抑えられるのではないかと思います。川に流入した表土は川底を上げ、川を茶濁させ、かなりの表土はオホーツク海に流入し漁業被害をだしているのではないかと思われ。

4) 北見市在住

常呂川は春先は雨が多い時は、木の流水がはげしく、
少々の行幸をもちと工砂んがれかあり、川辺に畑が水びたし
りかあり、で来るなら鉄木もつかって、すんを、たして、ほい、ひき、
北見の常呂線は通行止にさす、なります

5) 訓子府町在住

将来の常呂川の整備計画を進め、
いさなと思ひます。

6) 北見市在住

私共の住む北見市北東には昔北見西2号線が道路が常呂川を渡り
 南栄橋の北岸で、その上流に「訓子府川」が合流し、又下流には
 「無田川」が常呂川と合流する地域の中間に居住して
 いるため、冠水の被害を心配して居ます。~~平成~~^{平成}10年9月の台風17号
 のときも、又平成10年8月の大雨の際、常呂川の北岸の堤防が
 決壊したため冠水が防いだため土のりを積んだ跡が残っているが、
 何故かの放棄されたままです。被害を防ぐため緊急対策を講じて
 頂きたい。

7) 北見市在住

常呂川の本流は訓子府の中心部を豊か水量の貫流し、小中
 学校通して学舎や憩いの場であった。
 その名所の河川にはコンクリートもなく直流はなく、魚つりや、泳ぎの
 場であり、風景を画く憩いと、いしの場であった。
 現在、本流に注ぐ小河川をとりまく畑地や生活の状況を知る
 いはい。農薬、汚水でかわての魚釣りや山菜の場もなくなつた。
 本流の上流にある支流の生活、自然状況と考へて常呂川の河川整備を考へてほしい。
 河川の厚みは心のひろさとです。

8) 北見市在住

水は毎日使用する物で、とても大事な物です
 多少お金掛けてでも体良の水が供給できる
 ように環境造りにして下さい。お願いいたします

9) 北見市在住

水源の廻りが、農家、酪農「のみ」。
川には、農薬、牛ふんなどの汚物が流れ込み、人体に
危険だと思ふ。最、川、河川敷を整備し、流域に
緑や樹木、砂利、ロープ等と植えて
よいな水源を。す。
国産建設部の方、市はあてに「よらな、の」是非頑張り下す。

10) 北見市在住

古来より、河川は、人間の生活に深い関わりをもち、
人間の文化・経済に大きな功罪をもたらしてきた。論を
待たずせん。河川の氾濫を防ぐ為の努力は当然ながら、
護岸の為、コンクリートで固め、直線化し、川原を無くし、葦原
を消滅させる様な護岸工事ではなく、草、木も生かす思
も、全ての動植物が共存出来る河川の改修で
あることを強く望みます。(蛇籠による護岸が良いと思う)

11) 北見市在住

二〇二〇近年、常呂川増水による、耕作地浸水に利
害大なる被害を受けている。川の治水と、ダム管理
を徹底して改善して頂きたい。特に端野大橋の下流
の中州撤去を希望します。

12) 北見市在住

1. 意見 ○ P17, P30, P55: 孝岩川のBODは現状では環境基準を満足している。この記述は何かのつもりか。P19図1-4も孝岩川が満足とは書かれていない。むしろ、全道水質ランキング166河川中150位を占めることと記述した方が正しいのでは。
- P55: 簡易舗装用流水4770ccの土砂流出防止の何%に努めるのか。些末な記述は意味を見失う。
- P21: 水質事故について、民間企業等による油流出と事故と対策(抜うか)本川の負荷の大きさから言えぬ。降雨時の北見市下水の越流による産業全壊からの引取った水質の方がはるかに重大。
- P17: 419年集中豪雨による土砂流入により、北見市上水道に取水障害が生じており……の記述は網走河川の公式見解なのか。取水障害があったらと対策して取り除いた。濁水を取水した結果、浄水機能も破壊されたのではなかったか。北見市の責任の大小の議論はそれではいけない。

13) 北見市在住

旧常呂橋の河口地域の左岸(通り地域)も右岸(弁天地域)と同様に水が十分に平穏な河川敷地の確保と安全なため十分な堤防整備を求めます

平成 20 年 4 月 21 日

安心安全な常呂川の河口地域の整備を求めて

私は、北見市常呂町の旧常呂橋の左岸(本通り地域)の河口地域に祖父母から数えて三代にわたり 90 年以上生活している市民です。

旧常呂橋の河口地域の左岸(本通り地域)も右岸(弁天地域)と同じように十分広い平坦な河川敷地の確保と安全ななだらかな堤防整備を求めます。

確かに常呂川は河口地域直前までの下流地域の堤防整備は堤間川の河川敷地も十分な広さ(250m から 350m)が確保されて整備は進んでいると感じております。

しかし、昭和 39 年に廃止された旧常呂橋付近の河口地域の左岸(本通り地域)については右岸(弁天地域)と同じような平坦な河川敷地の確保や堤防整備がほとんど進んでいないと感じております。

昭和 39 年に廃止された旧常呂橋付近の整備については、右岸地域の整備は常呂橋撤去以前から平坦な河川敷地の確保と堤防が整備が進められましたが、左岸(本通り地域)は常呂橋の撤去後も整備はされず橋が撤去されたままのコンクリートむき出しのままの状態が未だに続いております。

具体的な状況は旧常呂橋の付近には平坦な河川敷地がほとんど無い状態でステンレスの柵付近から川をのぞくと垂直に 5m 以上落ち込むように感じる地形になっております。

小さな子供を持つ親としては非常に危険な地域になっております。

さらに旧常呂橋から 50m から 100m 程海側へ向かう左岸地域は、実際の地形は示されている図面とは違い、私有地の端が直接常呂川に落ち込むような地形になっているところもあります。

さらにそこは私有地ですのでステンレスの柵も取り付けられておりませんのでいつでも川に落ちる可能性をもった地形となっており子供や老人にとっては大変危険な地域となっております。

今回示されている増水時の対策としての常呂川河口付近のU字部分に直線的な水路を造る計画の実施については、昭和39年に廃止された常呂橋付近の左岸を安全な状態に整備した後に実施すべきであると感じております。

左岸(本通り地域)の整備は右岸(弁天地域)の整備と比較すると昭和39年以来全く手をつけられていないと言わなければなりません。

今回の工事により増水時に今までよりも常呂川の直接的な流れが押し寄せる危険性が増す、旧常呂橋の河口地域の左岸(本通り地域)の住民の安心安全を考えて、平成8年に示された河口地域の整備計画のように旧常呂橋付近の河口部の左岸(本通り)地域の住民が安心できる様な河道との間に平坦な河川敷地を十分確保した整備を実施してもらいたいと考えております。

最後に重ねてお願いしますが、今回計画されている河口付近の増水時対策としてのU字部分の直線的水路の工事に先行して、旧常呂橋付近の左岸整備を実施してもらいたいと考えております。

常呂川水系河川整備計画に関する意見書

◎常呂川との関わり（補足）

私は1954年（昭和29年）訓子府町仲町に生まれ、1961年頃から1966年まで（昭和36年から41年まで）すなわち小学1年生から6年生にかけて常呂川を遊び場として、昆虫採集、魚採り、水泳、木登り、ぶどう採り等、その自然に深く親しんで育ちました。

その後訓子府町を離れ各地を転々としましたが、1995年に帰郷し、以降現在地に暮らしております。

帰郷してもっとも残念だったのは、常呂川水系が変わり果てていたことです。常呂川水系の生物相は昭和30年代に比べて極端に貧しくなっており、非常に心を痛めております。

◎意見

私の意見の骨子は、常呂川水系の河川と河川敷の生物多様性を、せめて昭和40年頃の状態に回復していただきたいということです。

1. 昭和40年頃の常呂川水系の状態

別紙2～7に、私が [redacted] 執筆した作品（童話）を6篇添付しました。この中で、訓子府町はネップルタウン、常呂川はコロト川、シルコマベツ川は東ネップル川、田島牧場はヌマノ牧場と呼び変え、登場人物は変名にしておりますが、内容は昭和39年から41年にかけて（私が小学4年生から6年生のときに）実際に体験した事実に基づいて書かれております。

また、別紙8にはその当時に私たちが採集した昆虫標本目録を添付しました。

当時の私たちの活動範囲は、叶橋を基点として小学3年生が半日で歩いて行って帰れる範囲（およそ半径2Km以内）が主で、まれに自転車で往復1日（およそ半径4Km）の範囲でありました。

添付の作品および目録を読んでもいただければ、そのような近距離のエリア内に極めて豊かな生態系があつて、濃密な自然とのふれあいがあったことをご理解いただけるかと存じます。

2. 現在の常呂川水系の状態

1995年以降の状態については、時折上述の範囲を歩いた程度の知見ですが、気のついた点をいくつか断片的に挙げます。

①河川に魚がほとんどいなくなった。

●川に蛇行が無く、岸が全てコンクリートで覆われたためである。

②叶橋～穂波橋間の北岸の河川敷はかなり昔の面影を残しているが、乾燥化が進んでいるため湿性生物がほとんど残っていない。

●いくつかあった沼が壊滅している。

○トンボ、ヤチウグイ、カエルなどが絶滅した。

○かつてキショウブが繁茂していた沼の跡地の窪みに現在3株しか残っていない。

●叶橋付近の樋門にセリが1株だけ残っている。それを食草とするキアゲハの幼虫を1頭確認したが、1頭では子孫は残せない。

●その近くの常呂川河岸にガマが3株だけ残っている。

●ヨシは全域に渡ってあるがその数は激減した。

○ガマやヨシなどの湿生植物は水質浄化に欠かせない。

●フキ、ミツバ、ヨモギは最も身近で豊富な山菜であったが、激減していて採るに忍びない。

●ヤマブドウが絶滅し、そのニッチにツルウメモドキが繁茂して生態系を変えている。

●大麻が除去され、そのニッチにルーサンが入り込んでいる。

○これは繁殖力が旺盛なので生態系を激変させる恐れがある。

●砂の岸辺が無くなったのでムシトリナデシコが絶滅している。

●乾燥化しているにもかかわらず砂溜りが無くなっていてウスバカゲロウの幼虫（蟻地獄）が絶滅している。

●樹液を出しているナラが20本ほど残っている。

○クワガタ等の確認は行っていないが期待できる。

●キイチゴは昔と同じぐらいある。

●コンロンソウもかなりあるが、ハタザオは2箇所数株あるだけである。

○外来種のおオモンシロチョウが優勢になっているので、在来種のモンシロチョウの保護のためにこれら野生のアブラナ科植物の保全が必要である。スジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、ツマキチョウなどのためにも必要である。

●ヒゴグサもかなりあり、それを食草とするオオヒカゲがいる。

●ホザキナナカマドが増えており、ルリシジミは増えている。

- ③ 叶橋～西富樋門間の北岸の河川敷は乾燥が進み昔の面影がまったく無い。
- 訓子府大橋の上手30m程のところにイタドリの小群落がある。この付近は現在湿地だが、ブルドーザーで柳類を根こそぎ剥いでしまったので、いずれまったくの乾燥地となり、イタドリは壊滅するであろう。
 - 西富樋門手前100m程のところにホザキシモツケの小群落がある。これは2種のチョウの食草となるので増えて欲しい。
 - 西富樋門の上手にエゾヤマハギの大群落がある。
 - 昔はまったく無かったが樋門工事の際に進出したのでであろう。5種のチョウの食草となるのでこれは許そう。
 - その上手に柳の大群落があるが、乾燥が進むと遷移するだろう。
- ④ 常呂川南岸には昔は堤防が無く広大な湿地帯となっていて多様な生物が棲息したが、今はパークゴルフ場やお祭り広場になっていて生態系は壊滅した。
- シルコマベツ川の注ぐ辺りはかなり植生があるが詳しくは確認していない。上流域(道有林内)の生態系はまだ豊富である。
 - ケトナイ川の中流域および合流点付近は見る影も無い。上流域については詳しく調べていない。
- ⑤ 訓子府川(中ノ沢～北栄間)は、常呂川流域とは異なる独特の豊かな生態系を持っていたが、今は見る影もない。
- かつて採集したホンサナエ、ミヤマカワトンボ、エゾコヤマトンボ、オオヤマトンボは常呂川流域では決して見られない種であった。詳しく調べていないが多分今は絶滅したであろう。
- ⑥ 紅葉川もまた独特な生態系を持っていたし、酒谷川にはイトヨがいたが、これらも壊滅した。
- ⑦ 訓子府神社の境界に沿って流れている小川は、昔は叶橋～穂波橋間の北岸と同じような生態系があった。それを水源としていた訓子府小学校の二つの池とともに、小学低学年の児童はまずそこで水辺遊びを習得して、当時「大川」と呼ばれていた常呂川での本格的な川遊びに備えたのであった。
- しかしこの小川の生態系は、昭和42年に上流に建てられたバレイショ加工工場の廃液垂れ流しによってヘドロ化し壊滅した。
- まだ公害規正法が無かったとはいえ、川を綺麗にする代わりにコンクリートで蓋をし、腐臭を放つ池を埋め立ててしまった訓子府町議会の不見識が悔やまれてならない。

3. 提言

(1) 訓子府市街地付近（叶橋を基点とする上下2 Km）の常呂川流域について

- ① 常呂川に適度な蛇行を与える。
- ② 砂利の河岸、砂の河岸、植物の根の河岸、蛇籠の河岸などを少なくともそれぞれ20 m規模で多数造成する。
現在の叶橋付近は砂利の河岸の外側にコンクリートによる護岸を施してあるが、そのような工法がよいか、あるいは現存のコンクリート護岸の外側に細流を導きそこに上記の河岸を造成するか、それはあなた方の専門的な判断にお任せする。
(ドジョウ、カジカの繁殖をもって事業達成度を評価する。)
- ③ 叶橋～訓子府大橋間およびケトナイ川注ぎ口付近に「わんど」を多数造成する。その周囲は半日陰の湿性生態系とする。
(エゾウグイの繁殖をもって評価する。)
- ④ 叶橋～穂波橋間の北岸に池沼を復元し、日陰の湿性生態系を回復させる。
○ 5～10 a 水深20～30 cm程度の池沼を数箇所作る。
(キバネモリトンボ、ヤチウグイの繁殖をもって評価する。)
- ⑤ 訓子府大橋上流の北岸200 m程度を、明るい湿性生態系に造成する。
○ 50 a 最大水深80 cm程度の広く深い池を1～2箇所設け、常に明るい開放水面を維持する。
(オオルリボシヤンマの繁殖をもって評価する。)
- ⑥ その上流の河川敷は乾性生態系とする。
○ 当面は現状を放任し自然の遷移に任せてよいが、将来は野焼きが必要となるであろう。
- ⑦ シルコマベツ川の注ぎ口付近にも「わんど」を造成し、その周囲は半日陰の湿性生態系とする。
(ここもエゾウグイの繁殖をもって評価する。)
- ⑧ 必要に応じてかつて棲息していた生物種に限り移植・放流する。
(くれぐれも外来種を移入させないこと。)
- ⑨ 川遊び教室を開催する。
○ 当面現在53歳以上の川遊び経験者を指導員とし、徐々に子供たちの上級生が下級生を指導する子供文化の復活を図る。
- ⑩ パトロール体制を構築する。
○ 主にシルバー人材を活用する。

⑪上の⑨⑩を担う人々の研修体制を構築する。

⑫流域のカラマツ林を雑木林に変える。

○カラマツ林の二酸化炭素吸収量は雑木林の1/3～1/5しかない。しかも木材としての利用価値もまったくない。薪として利用するにも搬出にかかる石油燃料の消費量のほうが多くなるであろう。林床には草一本生えず生物相は極めて貧弱で、しかも保水力が低く豪雨災害を引き起こしやすい。

○カラマツを伐採搬出することは費用がかかりすぎるし徒に石油資源を消費するだけであるから、山焼きをするのが最善である。一時的には二酸化炭素を放出するが長期的に見れば二酸化炭素の吸収量を高めることが出来る。

山焼きは京都の大文字焼きのように観光資源となる。

○山焼きした跡地は放任してもやがて雑木林になるが、短期間で雑木林化するためには既存の雑木林から種子を採取し育苗して移植するほうが望ましい。

このような事業は四国の四万十川流域のように障害者施設に委託して行くと業者に委託するよりも安価に実施できるし、障害者の福祉向上にも役立つ。

○雑木林の維持には手入れが欠かせないので補助金を与える。

⑬以上の成果を都市住民に向け発信し「川とのふれあいツアー」等を企画推進する。

○連動して旅館や公共宿泊施設、食堂、昆虫採集用具・魚採り用具等の販売店などを充実させる。

⑭都市住民ならではの川遊びの発想（カヌー、ラフティング等）を逆輸入し、川とのふれあいのヴァリエーションを増やす。

⑮常呂川流域ならではの特産品の販売をこれと連動させる。

○訓子府町の場合、現状は玉葱、メロン、地酒「妻恋橋」「常呂川」ぐらいだが、雑木林が育成されると山野草がこれに加わる。

オホーツク地方の普通種は本州の希少種であるから、珍しい高級茶花としての潜在的需要は相当大きいと思われる。

（２）置戸町、北見市の流域について

①置戸町流域については昔も今もあまり知らないので提言を控える。

②北見市については、昨年の大規模断水の原因は、上水道取水地点での河岸の土砂の流出によるものと聞いている。

また中下流域で浸食された土砂は海に流出し水産業に多大な害を

及ぼしているとも聞くし、流域農家の家畜糞尿や農地へ散布された農薬も常呂川およびオホーツク海を汚染していると聞く。

これらを改善するには次のような施策が必要であろう。

○できるなら河岸の耕作権を放棄してもらい、河畔に湿原を復元する。(ヨシなどの湿生植物による河川の浄化法は10年ほど前に北見工業大学がノウハウを確立している。)

該当農家に対してはある程度の補償金を支払う必要があるだろう。

○そのような支出が許されないなら、河川敷に大々的に水田を造成するのがよい。むろん飼料作物として栽培するのである。水稻の飼料価値は穂孕み期に刈れば牧草に勝る。キャタピラ式ロールペーラーで収穫しビニール梱包サイレージとする。等高線に沿って畔を作り不耕起・直播・無農薬・無肥料栽培とし、飛行機で種籾を播くとよい。(この栽培法はやはり10年ほど前に上川農業試験場がノウハウを確立している。)

平均的な水田の湛水能力は200mmの雨量を蓄えることが出来るので、昔は豪雨が急激に河川に流入するのを緩和していた。(畦の高さ×面積で湛水能力は決まる。畦の強度は幅に比例する。そういう計算はあなた方の専門分野であろう。)

またその水田にヒメモノアラガイやカワニナを放流すればヘイケボタルが繁殖でき観光資源となる。ヤチウグイやドジョウやタニシを放流すれば水鳥が繁殖しこれも観光資源となる。

③北見市の常呂川流域には以上の施策を行うことがまず急務であるが、その後は(1)で述べたと同様な施策を、置戸町、訓子府町、北見市全域に及ぼし、連携させるべきである。

そうすれば、常呂川水系全域に農林水と観光がミックスした持続性の高い産業圏と、環境と人に優しいオリジナリティの高い文化圏が形成されるであろう。

結語：このような事業展開は、従来の工学的発想の河川施策には全く無かったものですから、自然科学と人文科学とにまたがる学際的な協力が必要ですし、費用もかかるに違いありませんが、環境問題に対する人々の関心が高まっている今、流域住民ばかりではなく道民・国民さらには世界中の人々に広く支持されるでありましょう。

そして、道および国は部や省の横断的連携が必要となりますが、知事や首相、道議会や国会の承認が必ず得られるものと信じます。ぜひ前向きにご検討ください。 以上

常呂川水系河川整備計画についての意見書

常呂川の支流隈川地帯

私の所有地は

有ります

関係の有る者ですが年数がたつにつれて

雪解水や台風の影響が激しく被害が増え天多

りまいた特別な川底がなん盪のため浸食が激しく

私達の方では防ぎようが有りません 特に一号橋の上下

流の被害が大きくなるので放棄して置くと下流の

住民の方々に迷惑をかける事真違ひ有ります

30m以上の大木が川に 横たわり被害を大きくして居ります

私の所有地も約100歩以上流出して居り一日も早く手を

を以て戴きたいと思っております 無罪の力を以て上げオホ

ソク海に沈み私達の行へは返つて来ません 見る度に胸

の痛を受け居ります 国や道の力を持って回復して

戴きます様お願い致します

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

常呂川水系河川整備計画(原案)について

- ・ 土砂の影響についてホタテの被害があったことを明確に書くべき。
- ・ ダムからの放流について情報を伝達すべき。
- ・ 堤外民地の買収について、計画的に進めるべき。
- ・ XXXXXXXXXXのサケの産卵床がある。場所を明示してこの保全を記述すべき。